

いたやなぎ 町議会だより

令和元年
9月定例会

第23号
2019. 11. 9

主な内容

- | | |
|------------|--------|
| ●6人が一般質問 | P2~7 |
| ●決算特別委員会審査 | P8~9 |
| ●常任委員会審査等 | P10~11 |
| ●研修等報告他 | P12~13 |

おらほぢの自慢！
～よろこびの秋～

小阿弥小学校学童農園 脱穀作業

町民の声を町政に

第15回定例会一般質問

第15回板柳町議会定例会が9月2日から11日までの日程で開催されました。9月5日に行われた「一般質問」に、6名の議員が登壇し質問しました。

一般質問は、議員の日常活動と町民の声や議員自身の考え方をもとに町長や教育長などの方針を問うものです。

板柳町議会では、1人60分の制限時間があります。議会だよりは、スペースの都合上、一人1ページ相当の文章量までとし、質問と答弁が要約してあります。臨場感ある本会議場での傍聴をお待ちしています。

高齢者の現況



三戸 玲子

問 高齢者の5年後、10年後、15年後の我が町の状況はどうなっていると予測しているか。

答 (成田町長)

国立社会保障人口問題研究所によると、高齢化率は2020年が38.2%、2025年が41.47%、2030年が44.74%、2035年が48.06%と予測されている。

問 後期高齢者になると、年金から保険料が引かれる。年金が少ない人についてはどのような方法で徴収しているか。

答

(成田町長)

原則、年金からの天引きとなっている。年金の受給額あるいは後期高齢者保険料と介護保険料との総額によっては口座振替または

納付書で納めていただく。年金から天引きしている人でも、口座振替での納付も可能である。



問 高齢者のひとり暮らしは何所帯ぐらいあるか。

答 (吉田介護福祉課長)

ひとり暮らしの資料を現在持っているが、参考として町では老人入浴無料券を約530世帯に配布している。

問 後期高齢者の掛金について、3割負担、1割負担の人の割合は。

答 (青山健康推進課長)

病院の窓口で支払う医療費の負担割合であるが、現役並み所得の人は3割、それ以外の人は1割負担。世帯の所得と収入の水準で判定する。後期高齢者の人全体で約2,600人。そのうち3割負担の人は約60人。

問 口座振替を希望する人もいるか。

答 (青山健康推進課長)

全体の約80%の2,000人の人が年金からの天引きを利用している。また、納付書を利用されている人が約15%、口座振替を利用されている人が6%である。



生活保護の現状

問 生活保護は、病気に

なったりして働けなくなったときのセーフティガードだと思ふ。現在の我が町の現状はどうなっているか。

答 (成田町長)

当町の受給者の状況であるが、平成29年度末で受

給者は296世帯で351人。

問 生活保護者に入ってくるお金は、我が町ではどれぐらいか。

答 (吉田介護福祉課長)

中南地域県民局の公表資料によると、平成29年度については板柳町の支給額は合計約2億2,000万円。

問 生活保護の人たちへの指導や生活支援等のサポートはあるか。

答 (吉田介護福祉課長)

中南地域県民局の職員1名が、町の担当として就労支援を行っている。





松森俊逸

公共施設整備計画

既存の公共施設において老朽化が著しいものも多く、優先度を見極めながら逐次整備していくものと考えますが、整備計画があるのか、どのように考えているのか。

答 (成田町長) 平成29年3月に板柳町公共施設等総合管理計画を策定している。町施設の整備に関しては、緊急性等を考慮し、優先すべきものは優先し、財政状況等を勘案しながら対応したい。

問 個別の施設計画はあるのか。

答 (大井総務課長) 令和2年度中に策定することが求められている。施設の現状や維持管理等の内容を検討して、個別に計画する予定である。

認知症支援

「認知症初期集中支援チーム」が平成30年4月から全自治体に設置されたが、当町における支援対象者はゼロである。現況についていかが考えるか。

答 (成田町長) 昨年9月にチラシにより町民の皆様にその内容をお知らせしているが、今後とも制度の周知に努めたい。

問 認知症の人を事前登録して行方不明時に役立つ見守り事業を行っているが、当町における登録実績はゼロである。現況についていかが考えるか。

答 (成田町長) 登録者に行方不明者の情報がメール配信されるシステムになっている。見守りの対象として登録されている人はいないが町の緊急連絡システムに約210人の方が登録されており、認知症の方が行方不明になった場合は情報が配信される。今後とも、引き続き町民の皆様へ周知したい。

幼保無償化における認可外施設

本年10月から始まる幼保無償化において、国の基準を満たさない認可外保育施設を自治体が条例で無償化の対象から外すことができるが、どのように考えているか。

答 (成田町長) 町内には認可外保育施設はないが、町外の認可外保育施設の利用も想定されるので、今後近隣市町村の動向等を注視しながら対応していきたい。

成年後見支援

弘前成年後見支援センターの運営が来年度から当町を含む8市町村で広域運営することになっているが、その概要は。また、当町既存事業との調整等の影響はあるのか。

答 (成田町長) 業務内容は、権利擁護に関する相談、支援や広報活動、後見人の養成研修等を行う予定である。広域化後には適切に対応できるように支援センターとの情報調整を図っていきたく考えている。

うに支援センターとの情報調整を図っていきたく考えている。

ふるさと納税促進

企業版のふるさと納税を受けられる体制づくりをすべきだと思うが、いかがか。

答 (成田町長) 企業版ふるさと納税は、その地域の活性化に向けた有効な手段の一つだと考えているので、今後内部のほうで調査研究していきたいと考えている。

災害避難支援名簿

平成26年施行の改正災害対策基本法で災害避難支援名簿の作成が義務付けられている。名簿情報に基づき一人一人の具体的な避難方法を本人等と決めておく個別計画も作成すべきものとされているが、当町においてはいかがか。

答 (成田町長) 個別計画については、作成していないが、今後は作成に向けて担当課に調査研究をさせたい。

学校給食費の公会計化

文科省は公立学校給食費の徴収管理業務について、自治体や教育委員会の公会計組み入れを推進するよう8月3日に関係機関へ通知している。学校給食費の公会計化を平成30年9月議会において提案しているが、本件についてどのような検討がなされ、今後どのようにする考えなのか。

答 (永澤教育長) 管内5校分の学校給食費徴収管理及び食材の発注に係る業務を現在の学務課の体制で公会計化を実施した場合、非常に対応が困難であると感じている。公会計化を進めた場合の学校給食費の徴収管理に係る職員配置や業務システム導入等に向けて予算確保のほか、整備体制づくりにおいて多くの課題があるが、町長と協議しながら進めていきたい。

要望 公会計化に関してはぜひ総合的に、給食費だけでなく考えてほしい。



葛西 幸男

マスコットキャラクター

問 町では、マスコットキャラクターあぷりんをどのようにして町民の方々に青森県内に宣伝していくか、お知らせ願いたい。

答 (成田町長) 本年3月25日のデビュー以来、あぷりんはりんど灯まつりや健康まつりなど町内のイベントや、アスパムで開催された「うまい森 青いもりフェア(※)」など各種イベントに、これまで既に20回程度出演している。

また、町内全ての保育所を訪問し、子供たちとの触れ合いを行ってきた。さらには、9月15日に東京で開催されるマラソングランウドチャンピオンシップにも駆けつけて、当町出身の富士加代子選手を応援する予定になっている。

これからも、まるかじりウオークや町民祭、雪まつりなど数多くのイベントが予定されているが、今後も機会あるごとに参加し、あぷりんを通じてりんごの里いたやなぎの魅力をPRしていきたいと考えている。



町では、マスコットキャラクターあぷりんをどのようにして町民の方々に青森県内に宣伝していくか、お知らせ願いたい。

問 町のバスまたは小学校内に絵を描いて宣伝したほうがよいと考えるが、町長の考えをお知らせ願いたい。

答 (成田町長) 町のバスにあぷりんの絵を描いて宣伝してはどうかというご提案であるが、今後もどういったPRが効果的かどうか、調査研究したい。

町内のバスまたは小学校内に絵を描いて宣伝したほうがよいと考えるが、町長の考えをお知らせ願いたい。

流雪溝

問 三千石、文京町、いたや町にはまだ流雪溝が整備されていない。

文京町はできてから40年余り、いたや町は37年になる。三千石、文京町、いたや町も高齢者のひとり暮らしが多くなってきており、これから雪の季節がやって来るが、雪を片づけることは高齢者にとって大変なことである。

答

(成田町長) 流・融雪溝の整備については、その必要性は十分認識しており、将来的には整備しなければならぬ課題の一つであると考えている。

今年度は田中町地区の岡本玉川環状線の融雪溝の整備に向けて現在測量設計業務を実施している。三千石、文京町、いたや町地区については現段階では具体的な整備計画はないが、今後においても三千石、文京町、いたや町を含む住宅密集地の冬期間における生活環境に不便が生じないようにきめ細やかな除排雪作業に努めていきたい。



議会を傍聴しませんか

次の定例会は12月です

<議会日程のお知らせ(予定)>

月日		内容
12月2日(月)	本会議	特別委員会報告等、提案理由の説明
12月4日(水)	本会議	一般質問
12月5日(木)	常任委員会	総務産業厚生・福祉建設文教
12月6日(金)	本会議	委員長報告等、質疑、討論、採決

※開催時間はいずれも午前10時(予定)です。

傍聴者名簿に住所、氏名、年齢を記入していただければ、どなたでも本会議を傍聴することができます。なお、傍聴できる人数は51人となっております。



(※)うまい森青いもりフェア：青森県の多彩な食の魅力を発信し、健康長寿を応援するイベント



佐藤 洋治

板柳町の将来

問 人口減少、少子高齢化という大きな時代の波の中で、我が町の主産業である農業に対して今後どのような影響があるのか。その現状と今後の対策について伺いたい。

答 (成田町長) 水田農業については、高品質米の生産拡大を図りながら、国、県の転作補助金を活用し、収益性の高い転作作物の導入、定着を進める。それとともに、農地の集約や規模拡大により生産コストの削減を図るなど、水田農家の経営安定と所得の向上を目指していく。

リンゴ栽培については、今後より高品質なリンゴ生産の取り組みを進めながら、作業の省力化や効率化を図るため、わい化栽培の

普及拡大や園地の若返り、防風網の整備により生産性を高めるなど、リンゴ農家の所得向上に努めていく。

農家の皆様が魅力と希望の持てる農業を目指し、県のさまざまな事業を最大限に活用しながら、当町の農業をさらに活性化させるため、今後とも全力を傾けて取り組んでいきたい。

問 基盤整備することによって、もっと板柳町の農家が規模拡大して足腰の強い農業ができるのではないかとと思うが、いかがか。

答 (成田町長) 農家所得の向上、農産物の生産性向上のためには、様々な生産基盤整備が必要だと思う。防風網の設置、農道の拡幅、圃場整備などがあり、既に実施に向けて動いているものもあり、様々な角度から検討したい。

りんご栽培については、今後より高品質なリンゴ生産の取り組みを進めながら、作業の省力化や効率化を図るため、わい化栽培の



問 各自自治体で色々な対策をして、人口減少を止めようと努力している。我が町も色々な対策をしているが、どういう結果になっているのか伺いたい。

答 (成田町長) 子供医療費の無料化を中学生まで拡大したほか、新婚世帯の家賃補助や町外から転入した子育て世帯に対して住宅取得費を助成するなど、若い世代が定住し、安心して子育てができる環境づくりに努めている。この3年間で48人の方が制度を活用して板柳町に転入している。

問 人口対策にとって一番大事なことは勤め先の確保だと思う。人口対策の解決の一つとして誘致企業を提案したいが、いかがか。

答 (成田町長) りんごワークを中心とした6次産業化を進めており、農家所得の向上、地元雇用にも結びついている。企業誘致を進めるとともに、さらにまた町の特産物を利用した加工を進めて農家所得の向上と雇用拡大を図っていきたい。

近隣の市町村でやっていないことをやれば、人の集まりが変わると思う。金利の安さを利用して、一戸建ての住宅を建てて、30年間家賃を納めれば無料でその住宅を差し上げるなどがいいか。

問 人口減少の中で、我が町の経済はどのくらいに位置して、今後どこまで下がるのか、上がるのかについての対応をお聞きしたい。

答 (成田町長) 青森県が出している青森県市町村民経済計算の資料によると、板柳町の町内総生産額は平成27年度が29.2億円、前年度に比べ11億円、4.1%増加している。これは、第2次産業が4.0%減少したものの、第1次産業が29.1%と大きく伸びたことによるものである。また、平成27年度の町民所得は30.4億円で、前年度に比べ23億円、8.3%増加している。この要因は、企業所得が22.9%増加したことによるものと考えられる。

これらのことから、町内の経済状況は比較的勢いを持って進んでいる状況にあると受けとめているが、気を緩めることなく、引き続き産業振興策に力を注ぎ、町内の活力を生み出すため経済をより活性化させていきたい。





今 浩一

役場庁舎の建設

問 役場庁舎の耐震調査結果を踏まえて、庁舎の耐震補強または新築の計画を考えているのか。

答 (成田町長) 現状としては建て替えや耐震補強といった具体的な計画には至っていない。耐震調査の結果からも役場庁舎は建て替え、補強、移転などさまざまな対策の検討が必要であるが、他の施設の状態なども踏まえながら、対策を進めていきたい。

問 耐震調査をクリアしてない物件については建て替えや補強などの指導はないのか。

答 (大井総務課長) 耐震基準を満たしていないという報告だけで、すぐに建て替えや補強しなければならぬわけではない。

小学校統合

問 2期目を迎えた現町政において、小学校統合について進展はあるのか、教育長へ伺いたい。

答 (永澤教育長) 現在改築工事を進めている板柳中学校と将来的に同じ敷地内に統合小学校を配置した場合に、校舎や体育館、野球場、ソフトボール場、陸上競技場などの施設が必要となることから、町理事者と協議をして今後話を進めていきたい。

問 小中一貫として考えるのか、もしくは小学校、中学校別々に建っていくのが望ましいと思っているか。教育委員会としてはどちらの方向へ進んでいくのか。

答 (永澤教育長) 小学校と中学校で連携はしていくが、同じ建物の中で一緒にということにはならないと考えている。

問 小学校を1つにするという考えか。

答 (成田町長) 児童数の減少、部活動への支障、校舎の老朽化などを考えると、近い将来統

合小学校を考えていかなければいけないと思っている。

問 統合をやるときは、地域、地区、通学等、色々なことが絡んでくるが、どのように考えているか。

答 (成田町長) 教育委員会の中で十分協議いただき、地域、関係団体から意見を聞き、通学の課題等含めて、地域の人にご理解いただいた上でスタートしていきたい。



ふるさとセンターへのアクセス道路計画

問 ふるさとセンターへの町のアクセス道路計画は、市内のふるさとセンター

活性化戦略会議において、要望があった計画に至ったとのことだが、その内容は。

答 (成田町長)

ふるさとセンターを核とした地域活性化を図る施策の一つとして、アクセス環境の活性化策が3つ提案された。

アクセス道路の整備、駐車場や24時間対応のトイレの整備、案内看板等の拡充の3つである。このうち、アクセス道路の整備は国道339号バイパスから既設の道路よりもわかりやすいルートで整備することで利用者の増加を図るという提案であった。

問 アクセス道路については、民間の調査会社に策定していただき、何らかの形で上がってくると思うが、議員に説明するということ考えてよろしいか。

答 (成田町長) 民間のコンサルタントに委託しており、年度末までにはできてくるので、皆さんに説明したい。

板柳町の財政

問 人口減少に伴い過疎指定を受けた当町だが、町としては財政状況をどのように分析しているか。

答 (成田町長)

各会計とも決算において赤字はなく、公営企業会計においては資金不足もなく、財政状況は健全である。平成30年度の数値は実質公債費比率が9.5、将来負担比率が0.1と、近年では最もよい数値である。

答 現在行われている消防署、中学校、青柳館に手がついていくが、この辺も含めて町の財政は健全だという認識なのか。

問 (村上企画財政課長) 現在進めている中学校の改築工事、予定されている消防庁舎の新築工事、その大規模事業を入れても、まだ健全化の数値的には大丈夫だと考えている。

問 今後、中学校、青柳館、消防署のほかのものにも手をつけていった時、まだまだ町の財政は健全だと言えるのか。

答 (村上企画財政課長) 数値のシミュレーションを少しずつ進めながら、タイミングをはかって進めていかなければならないと考えている。



鈴木 清孝

町中心街の持続可能な地域づくり

問 役場を基点とした中心街の今後も持続可能な地域づくりを進める上で、人口の定住方策について伺いたい。

答

(成田町長)

人口対策では、子育て世帯定住サポート事業、子育て住宅取得事業、中学生までの子供医療費の無料化や乳幼児のインフルエンザ予防接種の助成のほか、妊婦の無料歯科健診や特定不妊治療費助成などを実施している。

また、今年度は定住対策事業として新たに空き家利活用定住補助事業と国の事業による地方創生移住支援事業を実施している。

問 町の空き店舗活用事業のここ数年の実績は。

答

(田澤産業振興課長)

町の中心街の空洞化を防ぐために、空き地の活用や、空き店舗等をリニューアルし補修活用したり、いわば町なか公営住宅として活用していくのはどうか。こういったことをやってみる必要があるのではないかと、町長の考えは。

答

(成田町長)

商店街の空洞化は、年々進んでいて、町の大きな課題の一つである。

中心商店街のにぎわいを取り戻し活性化していくというところは、町全体にかかわることであるので、提言いただいた提案を含めて今後検討したいと考えている。



第6次町長期振興計画

問 令和2年度までを計画期間とした第5次板柳町長期振興計画プラン2020の後継と言うべき第6次の計画を策定する予定があるか。あるとすれば今後の見通しについて伺いたい。

答

(成田町長)

平成23年に地方自治法が改正され、地方自治体の基本構想策定の義務はなくなったが、当町の長期振興計画は町の全ての計画の基本であり、まちづくりの指針となるものであるもので、なくてはならないと認識している。

第6次となる次期計画を策定する考えであり、現行の第5次計画の計画期間最終年となる令和2年度に行う予定としている。

問 長期振興計画は、十二分に町民の意見を組み入れながらつくらなければいけないと思う。来年度というだけではなくて、できるだけ早く着手して取り組むべきだと思いが。

答

(成田町長)

長期振興計画は、まち

づくりの最上位の計画になる。まちづくりでも、農業でも、あらゆる計画というのは必ず目標が必要である。第6次長期振興計画になるが、来年度予算化して、ぜひともつくりたいと考えている。

今後の町財政運営

問 決算等審査意見書総括の結びにおいて、令和元年度以降には、町財政の将来負担比率後退が予測され、加えて経常収支比率の増加が見込まれ、町財政の弾力性低下が指摘されている。監査委員の指摘意見について財政運営上の対策をどのように講じていくのか、町長の見解を伺いたい。

答

(成田町長)

事業の実施にあたっては、緊急性や必要性を十分見極めて選択するとともに、補助金などの有利な財源をできるだけ活用するなど、今後とも健全財政の堅持に努めながら、しっかりと町政運営に取り組んでいきたい。

綿密に計画を立てて実践していく。災害とか、緊急やむを得ない場合は補正予算で対処する。その財政規律の部分では変わっていないということであるならば、6月定例会でも、今回の補正予算でもいろいろ追加や変更などが出てきているが、当初予算で綿密に組み立てるということはできなかったのか。

答

(成田町長)

当初予算でできなかったことが出てきている。例えば今回の補正予算でお願いしている板柳中学校新校舎の工事費の増額は当初予定していなかった。そのようなことがあるので、年4回定例会を開催することで、対応させていただいている。



決算特別委員会 総括質疑

平成30年度の各会計決算を審議するため、議員全員で構成する決算特別委員会（委員長・成田陽光議員／副委員長・今浩一議員）を設置し、9月9日・10日の2日間にわたり詳細に審議しました。数多くの質疑がありましたが、その一部を紹介します。

※平成30年度各会計決算の詳細については、広報いたやなぎ10月号に掲載されています。



◎ふるさと納税
■質問 佐藤洋治委員
差し引きすればプラスか、マイナスか。

▲田邊税務会計課長
経費として1,834万4,896円の経費を要している。板柳町に住んでいる方が他の市町村への寄附の状況を見て差し引きどのくらいになるかについて、町民税の減収分に相当する額146万5,207円。寄付額2,878万2,000円から差し引きすると、897万1,897円のプラスになる。



◎ゆるキャラ(あぷりん)
■質問 今浩一副委員長
1体だけでいくのか増やすのか、場合によっては前向きに検討していく気持ちはあるのか。

▲成田町長
利用状況や使用状況を勘案しながら、1体でいいのかどうか考えていきたい。

◎イルミネーション
■質問 今浩一副委員長
今後の町の展開について伺いたい。

▲葛西ふるさとセンター所長
増設工事ということでは、バージョンアップをしている。点灯期間中、家族連れまたは若いカップルの方、また年配の方も相当足を運んでいた。今後も企画財政課や理事者ともどのような方向に持っていくか、検討したいと考えている。



◎収納対策会議
■質問 佐藤洋治委員
徴収率平均が91.3%

で、8%以上まだ納めていない人がいる。新しい方策はあるか。

▲村上副町長
基本的なことを担当課で周知徹底して、戸別訪問によって収納に取り組んでいる。

収納できるところは分納でもいいから収納していた。その分納にしても、過年度分については、収納率が低い。基本的な定額以上の分納についてお支払いしていた。くように努力したい。

■質問 佐藤洋治委員
戸別訪問の件数は、
▲田邊税務会計課長
12月に49軒を訪問した。

◎準要保護児童生徒
■質問 三戸礼子委員
準要保護児童生徒が学

校給食費や給食費が1,000万円以上あるが、全体の何割がこの準要に当たって給食費を無料で受けているのか。

▲對馬学務課長
準要保護児童生徒が学費の割合については、小学校が20.7%、中学校が24.4%、合わせて22%である。

◎小学校のトイレ
■質問 成田肇委員
北小、南小、それぞれ何

基取り替えたのか。
▲對馬学務課長
南小学校は洋式トイレ6台、北小学校は洋式トイレ2台を取り替えた。ほとんどの学校に洋式トイレが設置されたので、今後要望があればまた検討したい。

◎除雪サポート活動
■質問 三戸礼子委員
事業の内容は。

▲竹内地域整備課長
冬期間における歩行者の安全確保と住民生活の向上を図ることを目的としている。助成対象団体が町内会及び小中学校PTAに集会所等その他の地域における活動に対して除雪機械の燃料費及び保険料を補助している。

上限3万円を助成しており、30年度は17団体に助成した。

◎多目的ホールあぷりん
■質問 三戸礼子委員
使用実績は。

▲三浦生涯学習課長
町内について、町主催のもので無料で使用しているのが206件。公共的団体が使用して8割減免されているのが79件。町外は28件。

◎PR動画
■質問 今浩一副委員長
町のPR動画350万円

の決算額があるが、実際どのように活用したのか。
▲村上企画財政課長
実績が少ないが、これからどんどん出していくことにしている。集客のある施設でも流していきたいと考えている。

■質問 今浩一副委員長
計画は考えているか。

▲村上企画財政課長

初めには首都圏で行う移住セミナーで使えればいいと作製のとときに考えていた。まずはそこを押さえていきたいと思っている。

◎ホームページ改修

■質問 松森俊逸委員

改修は全部完了しているのか。

▲大井総務課長

これ以上また新たに何か改修するという予定は今のところない。

■質問 松森俊逸委員

ホームページに町PR動画及びゆるキャラをがんばらん出して、最低限ライン、フェイスブック、ツイッタークラウドは町の公式SNSとしてリンクさせるべきだと思ふ。将来的な考えはあるか。

▲大井総務課長

動画を町のホームページに掲載してPRすることは大事なことなので、企画財政課と協議しながら考えていきたい。

SNSについてはやる、やらないというのは今のところ考えていない。

◎街灯料

■質問 松森俊逸委員

街灯料というのは、防犯

灯を含むのか、どの範囲を指しているのか。

▲大井総務課長

街灯料690万ほど決算額があるが、各町内会LED化に伴い各町内の街灯料を負担している。ただし、東雲町、仲町、栄町、大町は商店街の街灯料に係る経費の3割を町で負担しており、その分もこれに含まれている。

■質問 松森俊逸委員

4町会の3割の額は大体どの程度か。

▲大井総務課長

30年度の決算額としては21万2,472円である。

◎防風ネット

■質問 今浩一副委員長

防風ネットの張りかえ等について対策する考えはないか。

▲田澤産業振興課長

町長の違った機会の答弁の中にも、一回補助したのについて再度補助するのはいかがかという答弁があったと思ふ。新規にやる場合は県の協会の防風網の補助もあるの、そういうことも考えながら対応したい。

■質問 今浩一副委員長

要望があるのであれば、県の補助金がなくても、町として色々な意見を取りまとめて、どのくらいのこと

ができるかの検討はできないか。

▲成田町長

新設に当たっては国の補助金を使ってやっている。それが年数がたつとネットが老朽化して、それに対してまた町で補助してほしいというの、二重に補助することになる。

町では農業共済加入補助金を出している。防風ネットだけにとらわれず、果樹共済の加入を側面から支援してあげることで強い農業づくりを進めているため、総合的にご理解していただきたい。

▲田澤産業振興課長

実行委員会では233万円程度の決算となっていることである。その中で町が120万円の補助をしている。ラジオCM等の経費に充当、周遊バスの補助、警備誘導に対して充当している。

▲田澤産業振興課長

実行委員会では233万円程度の決算となっていることである。その中で町が120万円の補助をしている。ラジオCM等の経費に充当、周遊バスの補助、警備誘導に対して充当している。

◎クラフト小径

■質問 松森俊逸委員

どのくらいの予算規模でやっているか。

▲田澤産業振興課長

実行委員会では233万円程度の決算となっていることである。その中で町が120万円の補助をしている。ラジオCM等の経費に充当、周遊バスの補助、警備誘導に対して充当している。

◎消防団

■質問 長内良蔵委員

団員数は、また、その団員数に対する報酬や退職金について伺いたい。

▲大井総務課長

消防団員の数について、30年度の決算では280名の方に報酬を支給している。消防団員報酬支給総額は328万969円である。

退職金の支給金額については勤続年数や階級によって金額が異なり、5年以上在籍した団員の方に退職金を支給している。30年度の支給実績は、11名で468万4,000円である。



◎公有財産

■質問 鈴木清孝委員

旧沿川第一小学校、第二小学校は現在どういう使用方をしているか。

▲大井総務課長

旧沿川第一小学校は現在とりたて一番へ貸し付けしている。また、農業法人へ体育館の一部を農業用の資材置き場として貸し付けしている。

旧沿川第二小学校は特定非常利活動法人へ校舎の一

部を貸し付けしている。いずれも、貸付料等を徴収している。

◎入院患者

■質問 松森俊逸委員

中央病院の事業報告書の中で、30年度は入院患者が10%増したと書いてあるが、この原因は何か。

▲八木橋中央病院事務長

30年4月1日までに地域包括ケア病床を10床増やしている。このことによつて、市民の必要とする医療需要にちようど合致して入院患者が増えたと捉えている。

◎時間外勤務手当

■質問 鈴木清孝委員

不用額は出ているか。

▲大井総務課長

全部の課の時間外の不用額を把握してはいませんが、時間外の不用額はないものと思つている。

■質問 鈴木清孝委員

職員モチベーションを上げていくためにも、経常経費が上がると思ふが、少しでも気配りをして職員の出させることが行政運営上大事なことだと思ふがいかがか。

▲成田町長

時間外について、上げるとは今申し上げることはできないが、検討、研究させていたいただきたい。

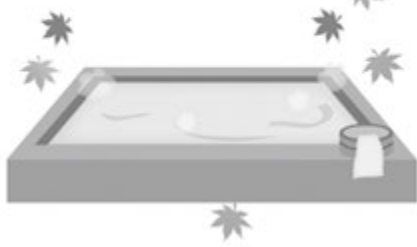
任 委 員 会 常 委 員 会 審 査

総務産業厚生 常任委員会

■青柳館大浴場

Q ふるさとセンターの家族風呂について、障害者のための何かを考えているか。障害者手帳を出せば半額にするなどの配慮を考えてもらえないか。

A 今後内部のほうで検討させて、情報も仕入れて対応したい。



■青柳館清掃業務委託料

Q 清掃業者に委託するのは、個人に委託するのか。

A 清掃業者をお願いしたいと考えている。

■職員研修委託料

Q 講師先生を呼んで職員研修をしているのか、それとも職員をどこかに派遣して研修をしているのか。

A 職員研修委託料61万6,120円の内訳だが、人事評価研修に36万6,110円、情報セキュリティポリシー研修に25万円となっている。この2つの研修、専門の講師に依頼している。

Q 何名くらいの職員が参加しているか。

A 全職員に関係することであるので、両方とも2日間になり、特段業務に支障がない限り、全職員出席することで実施している。

■子育て世帯定住サポート

Q 子育て世帯定住サポート362万6,000円、補助の条件は。

A 転入して、町に住宅を取得して、定住しようとする方に住宅取得費の5%、上限100万円、町の業者と

契約した場合は1%上乘せして6%、上限120万円を交付する。

Q 件数は。

A 30年は4件分である。

■企業誘致

Q 企業誘致に対する町長の見解は。

A 国内の景気がよかった時代に板柳町にも入ってきたのだが、縫製工場など景気に左右される企業が多く、外国に移って空洞化した。そういった中で企業誘致というのは大変難しい状況にあると思う。ただ、企業誘致として、津軽りんご市場は、30年産で100億円を超える規模で、取り扱い数量も年々増え、それに伴い第2の市場をつくって経営を広げている。それによって雇用が増えたと聞いているので、見守っていきたいと考えている。



■収入保険制度

Q 果樹共済から収入保険に移行しつつあると思うが、収入保険に誘導するためには何かあってもいいのではないかとと思うがいかがか。

A 掛ける際に必須となる青色申告の勉強会などを各団体が行ったたり、町が行う事業に合わせてPRして、町広報紙、農事だより等を使い周知を図っている。



■入院患者

Q 前年度より2,180人増えて、外来は2,900人減っている。一般病棟と療養病棟どちらの割合が多く増えているか。また、外来が減っている要因は。

A パーセンテージの割合でいくと療養病床はほぼ埋まっているような状況が

い。外来については、耳鼻咽喉科が診療日が4日から2日に減ったのが大きな要因としてある。

Q 近年は板柳町だけでなく、鶴田、藤崎、弘前新和地区などからも入ってきていると思うが、状況は。

A 入院患者は約50%弱が町民の方。残り3割が鶴田の方で、残り2割は弘前の北部、鬼沢や十腰内の方が来ている。



福祉建設文教 常任委員会

■交通安全施設整備工事

Q 場所はどこか。

A 国道339号線バイパス、一戸菓子店から都市計画道路の方に抜けていく道路の踏切を越えて、突き当たりまでの区間。

■地域密着型サービス等
提供施設整備補助金

Q 老人福祉費の中の地域密着型サービス等提供施設整備補助金3,200万円、施設開設準備経費助成特別対策事業費補助金720万円、この施設か。

A 予定事業者は緑陽会。

Q どのような設備になるか。

A あくまでも予定だが、約70坪で、建設費と設計監理合わせて6,500万ぐらいと聞いている。9人の9床分と、その他備品の申請が来ているが、ベッドだと聞いている。

■斎場

Q FFストープ4台分の予算があるが、たしか両サイドの機械室1個ずつと、火葬する場所に2つ、合計4つだと思うが、事務所は必要なのか。

A 斎場の両待合室に3台、事務室に1台、ホールには持ち運びできるのを2台、冬期間だけ使用している。そのうちの4台が故障した。

Q 町内と町外の使用数は。

A 町内が201件、町外が63件。

■部活動補助金

Q 予算を出す条件は。

A 中学校の生徒について、県大会、東北大会、全国大会に出場する際は、輸送費と宿泊費について補助金を交付している。県大会について、南部地方で実施する場合は交付している。



■公共樹(ます)

Q 宅内に下水道の公共樹を設置し、下水道本管へ接続するまでの工事について、例えば農地を宅地及び雑種地にした場合、要望があれば個々に私有地の公共樹の設置を対応してきたのか。

A 農業集落排水、公共、いずれの事業の区域においても対応してきた。

■まるかじりウオーク

Q 昨年台風の影響で中止になったが、予算はどれくらい残っているか。

A 前もって注文しているものやプログラム代を支払った結果、予算が底をつき、約5万円の赤字になった。不足分は流用して対応したため、ウオークの予算は前年度末でゼロである。



■多目的ホールあふる

Q 結婚式の実績はあるか。

A 30年度の実績は1件。

議会の動き (7月~9月)

開催日	会議等名	開催日	会議等名		
7月	2日	総務産業厚生常任委員会視察研修(～5日)	8月	7日	町例月出納検査(監査)
	9日	弘前地区環境整備事務組合臨時会		19日	議員全員協議会
	〃	津軽広域連合議会臨時会		〃	板柳中学校改築特別委員会
	〃	弘前地区消防事務組合臨時会		21日	西北五広域福祉事務組合議会定例会
	10日	町例月出納検査(監査)		〃	国民健康保険運営協議会
	〃	県下町村議会議員研修会		23日	議案説明会
	12日	議会運営委員会		28日	議会運営委員会(定例会案件)
	〃	議案説明会		9月	2日
	16日	議会だより編集特別委員会	〃		本会議(定例会日程、町長の提案理由等)
	17日	臨時会	〃		板柳中学校改築特別委員会
	〃	議会運営委員会(9月会議日程等)	5日		本会議(一般質問・6人)
	〃	議会だより編集特別委員会	6日		総務産業厚生常任委員会(所管事務調査)
	23日	福祉建設文教常任委員会視察研修(～26日)	〃		福祉建設文教常任委員会(所管事務調査)
	29日	議会だより編集特別委員会	9日		決算特別委員会
31日	議会だより編集特別委員会	10日	決算特別委員会		
		〃	議員全員協議会		
		11日	本会議(委員長報告、採決、閉会)		
		13日	町例月出納検査(監査)		
		24日	議会広報研修会(～25日)		

視察・研修レポート

総務産業厚生常任委員会視察研修

7月2日から5日までの4日間の日程で北海道十勝を中心に視察研修を行いました。参加者は、佐藤洋治副委員長、葛西清人委員、鈴木清孝委員、私、委員長、三戸玲子、對馬事務局長の5名でした。

1日目は、飛行機の遅れなどがあり、釧路市に着いたものの、濃い霧のため、予定していた釧路湿原の視察は断念いたしました。

2日目は音更（おとふけ）町農協で、労働力支援に関わる取り組みについて研修を行いました。

農協職員が条件の合う生産者と労働者を紹介し、マッチングを行っています。また、労働力地域間連携の取り組みは、農繁期が競合しない地域の宮崎県のJA西都（さいと）と調査研修をしているものであります。渡航費など経費の面でいろいろ課題があり、本格的な実施は難しいように感じました。



池田町ワイン城にて

3日目は、池田町ワイン城セミナールームにおいて、クラウドファンディングを活用したワイン城再生の取り組みについて研修を行いました。建設から44年経過し老朽化、耐震化などの課題があるワイン城を改修するため、目標金額2,000万円で実施したものであります。

4日目は、観光振興の研修として札幌ドームと札幌市内を視察し、帰路につきました。

（委員長 三戸 玲子）

福祉建設文教常任委員会視察研修

7月23日から26日、3泊4日の日程で、北海道東川町を中心に視察研修を行いました。

初日は移動日となり、隣接している旭川市に1泊、翌日2日目は東川町役場3階委員会室において、町の概要、取り組みなどの説明を受けた後、意見交換を行い、廃校利用の本丸である日本語学校の現地視察を行いました。

2015年10月に開校したこの学校は、旧東川小学校校舎を利用した全国で唯一公立の日本語学校です。奨学金制度もあり、町では2分の1を負担、1人6万9,000円からかかる寮費は4万円を町で負担していますが、8割が国より特別交付されるとのこと。

3日目は、観光振興の研修として、網走刑務所と、世界遺産の知床及び周辺施設を視察し、翌日女満別空港より帰路につき



東川町役場にて

ました。板柳町において小学校統合が検討されている今、残される旧学校の利用、活用法の検討も十分必要なことだと思われれます。町、議会、地域が一体となり取り組みこの姿勢を参考に、私たちも町の発展に尽力したいと思えます。

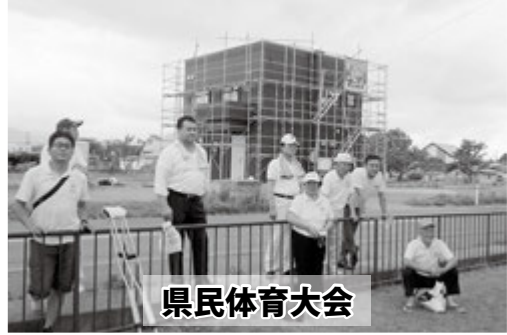
このたびの視察参加者は、長内良蔵副委員長、北畠弘美委員、葛西幸男委員、成田陽光委員、議会事務局、齋藤主査、そして、私、委員長、今浩一でした。

（委員長 今 浩一）

視察・研修レポート

全力応援!! 熱いスポーツの夏

県民体育大会(7月27日~28日)と県民駅伝競走大会(9月1日)に応援におかいました。



県民体育大会

県下町村議会 議員研修会

7月10日に、青森市リンクモア平安閣市民ホールにおいて県下町村議会議員研修会が開催されました。

政治アナリストの伊藤惇夫氏を講師に、「今後の政局・政治展望」と題し、参議院選挙の動向、安倍政権の今後の状況などを自身の人脈から得たなかなか知り得ない情報を交えながら、ユーモアのある講演が行われました。

(副議長 長内 良蔵)

いたやなぎ町議会だより編集特別委員会 町村議会広報研修会

9月24日に、東京都千代田区「シエーンバツハ・サボー」において、議会広報研修会が開催されました。当委員会からは、今浩一副委員長、葛西幸男委員、私、委員長の成田陽光、事務局齋藤主查が参加しました。

最初の科目は「読者視線で親切的な広報誌を作るには」です。『月刊総務』編集長の豊田健一氏が講師を務めました。ドラッガーのコミュニケーションに関する理論を参考に、

住民が議会への関心を高め、

議会に参加し、議会と共により良い地域社会を作っていくことが広報誌の発行目的であることを学びました。

次の科目は「情報を分かりやすく伝える」です。朝日新聞メディアアプロダクション校閲事業部長の前田安正氏が講師を務めました。講義では、読み手に分かりやすい文章に着目し、句読点の打つ場所や5W1Hを意識した文章の構成について学びました。

最後の科目は全国コン

クールルの優秀賞を題材にした講義です。エディターの吉村潔氏が講師を務めました。入賞作品は、30ページ前後の贅沢な広報紙でした。参考にできる点を少しでも取り入れ、親しみの持てる議会だよりを目指したいです。

(委員長 成田 陽光)



研修会場入口前



研修受講中

実りの秋を迎えて、刈取、脱穀と児童たちも楽しみながら汗を流していたように感じます。

田植えでドロコンコにまみれたのもいい思い出となり、郷里の風土を胸にみんな思い思いの分野で活躍する人材になってもうりたいと願っております。でもやっぱり一番のお楽しみは臼と杵でついたきたてのお餅ですね。農作業を通じて、食の大切さや郷土文化を伝えていく学校の取組も『おらほぢの自慢！』選考理由の一つです。

(委員長 成田 陽光)

【発行責任者】

議長 葛西 清人

※第24号発行予定は2月14日頃です。
議会だよりへのご意見・ご感想をお聞かせください。

一目で分かる審議結果

◆第7回臨時会

議案	結果
福祉バス購入契約について	全員可決

○全会一致の議案

◆第15回定例会

議案	結果
板柳町教育委員会委員の任命につき同意を求めることについて	全員可決
人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて	全員可決
人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて	全員可決
弘前圏域定住自立圏の形成に関する協定の一部を変更する協定の締結について	全員可決
板柳町印鑑の登録及び証明に関する条例の一部改正について	全員可決
板柳町職員の育児休業等に関する条例の一部改正について	全員可決
板柳町職員の給与に関する条例等の一部改正について	全員可決
板柳町ふるさとセンター施設使用条例の一部改正について	全員可決
平成30年度板柳町水道事業会計未処分利益剰余金の処分について	全員可決
令和元年度板柳町国民健康保険事業特別会計補正予算（第1号）	全員可決
令和元年度板柳町後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）	全員可決
令和元年度板柳町介護保険特別会計補正予算（第2号）	全員可決
令和元年度板柳町農業集落排水事業特別会計補正予算（第1号）	全員可決
令和元年度国民健康保険板柳中央病院事業会計補正予算（第1号）	全員可決
令和元年度板柳町公共下水道事業会計補正予算（第1号）	全員可決
平成30年度各会計決算の認定	全員認定
平成30年度板柳町健全化判断比率の報告について	報告のみ
平成30年度資金不足比率の報告について	報告のみ
一般財団法人板柳町産業振興公社りんごワーク研究所経営状況の報告について	報告のみ
板柳町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部改正について	全員可決

○賛否の分かれた議案

議案	氏名										結果	
	鈴木清孝	久米田玄佐雄	成田陽光	松森俊逸	今浩一	葛西幸男	長内良蔵	佐藤洋治	成田肇	三戸玲子		北嶋弘美
令和元年度板柳町一般会計補正予算（第2号）	×	○	×	欠	×	○	×	○	○	○	○	賛成6人 可決

○：賛成、×：反対 欠：欠席 ※議長は採決に加わらない。

議案に対する反対討論：今浩一議員

議案に記載されているもの、全部に反対という訳ではない。
この議案には、前定例会に提案された、板柳消防署建設に伴う用地取得に関係する、「消防施設費」立木補償費として1,836万2,000円が計上されている。しかし、これは、前定例会において、可決承認された場所のものではなく、別の場所のものとなっている。これはまさしく、議論不足であったからではないか。とりあえず議会で可決承認し、後から違う案とし、新たな追加予算が出てくる、このようなやり方に疑問を持つ。そこで、私の考えを述べさせていただく。
まず、消防署建設は、町内の消防バランスを考慮し、町の所有地を利用し早期建設に努める。バイパス沿いに、新規土地購入をする考えがあるのであれば、それは、いわゆる「新生とれたて市」のような直売所の建設を目的とした土地購入とする。建設費には、現在、町が検討している「ふるさとセンターアクセス道路」にかかるであろう費用を充当し、町の特産品販売の新たな拠点をつくる。現在のふるさとセンターにおいては、加工・生産・物づくりの拠点（ファクトリー）とし、温泉施設もある町民向けの憩いの場とする。
車社会の今、バイパス沿いは商業の基盤・動脈であり、将来に向けて、我が町の活性化の生命線ともなり得るものである。トータル的な町づくりを考え、予算を有効に使う検討を再度お願いしたく、議案第17号 令和元年度一般会計補正予算（第2号）に反対する。

議案に対する賛成討論：なし